

平成18年7月31日

各 位

香川大学医学部広報情報室長

波多江 種 宣

ベンチャービジネス「株式会社ガルファーマ」のモデル計画、
科学技術振興機構（JST）独創的シーズ展開事業「独創モデル
化」における平成18年度新規採択課題に採用決定

謹啓 時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、本学医学部免疫病理学 平島光臣教授が代表取締役を務めるベンチャービジネス「株式会社ガルファーマ」の新規課題が、科学技術振興機構（JST）の独創的シーズ展開事業「独創モデル化」における平成18年度新規採択課題に採用決定されました。

採択となった新規課題は、『「乳がんホルモン療法効果予知診断」キットの開発』で、平成18年7月から平成19年3月までの研究期間で、3,000万円の予算が新規決定されました。

本事業では、香川大学医学部の技術シーズを用いて、「メニン蛋白質」を検出するキットの作成を行います。このキットを用いて、乳がん術後再発防止に広く用いられるホルモン療法剤タモキシフェンの効果を阻害する「メニン蛋白質」（乳がん細胞の核内に存在する）の発現を解析します。この解析を通じて、タモキシフェン効果予知の可能性を検討いたします。

本研究には、香川大学医学部平島教授並びに本学医学部細胞制御医学講座 山内清明 客員教授、生体分子医学講座 西 望 助手他、東京医科大学、熊本大学、名古屋市立大学等が参加いたします。

本研究のキット開発を通じて、乳がん組織におけるメニン蛋白質発現解析によるタモキシフェンの効果予知を明示することが期待されます。

なお、採択に関する情報は、科学技術振興機構（JST）のホームページ URL <http://www.jst.go.jp/pr/info/info306/index.html> に掲載されておりますことを申し添えます。

本件問い合わせ
香川大学医学部細胞制御
医学講座
客員教授 山内清明
TEL 087-891-2403
又は
香川大学医学部総務課
広報法規担当 藤川
TEL 087-891-2008

平成18年6月29日

東京都千代田区四番町5-3
 科学技術振興機構(JST)
 電話(03)-5214-8404(総務部広報室)
 URL <http://www.jst.go.jp/>

独創的シーズ展開事業「独創モデル化」における 平成18年度新規採択課題の決定について

JST(理事長 沖村憲樹)は、独創的シーズ展開事業「独創モデル化」の平成18年度新規採択課題20件を選定しました。

「独創モデル化」プログラムは、研究開発型の中堅・中小企業が有する新技術コンセプト(新しい産業を生み出す可能性等を有する、大学や公的研究機関等の研究成果を基にした技術的な概念や製品構想)をJST、企業、大学・公的研究機関等(研究者)が協力して、試作品として具体的な形とすることや実用化に向けて必要なデータ取得等のモデル化を実施することにより育成するものです。モデル化により企業化開発に移行するために必要なデータを取得し、その後の新技術の実用化を促進し、新産業の創出に寄与します。

今年度は96件の応募があり、プログラムディレクター及びプログラムオフィサーにより課題の新規性、企業化の可能性、社会的意義、モデル化の目標の妥当性等の観点から審査(事前評価)し、課題の選考を進めてきました。

今後、契約等の条件が整い次第、実施に着手する予定です。

(別紙) 平成18年度採択課題一覧

(参考1) 独創的シーズ展開事業 独創モデル化

(参考2) プログラムオフィサー名簿

お問合せ先

独立行政法人科学技術振興機構
 産学連携事業本部 技術展開部 技術育成課
 及川智博、高木千尋
 〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ
 TEL:03-5214-8475 FAX:03-5214-8496
 E-mail:dokusou@jst.go.jp

■ 戻る ■

This page updated on Jun 29, 2006

Copyright©2006 Japan Science and Technology Agency.

www-admin@tokyo.jst.go.jp

JSTトップ > プレス一覧 > 科学技術振興機構報 第306号 > 別紙

別紙

独創的シーズ展開事業独創モデル化 平成18年度採択課題一覧

バイオ系分野(10課題)

	企業名	課題名	協力研究者
1	株式会社メラン	横装着小型ネーザルCPAPの試作	川橋 正昭 (埼玉大学理工学研究科) 他
2	株式会社MCBI	肝疾患早期診断のためのImmunoMS検査システムの研究開発	白木 克哉 (三重大学医学部附属病院) 他
3	メッセンジャー・スケープ株式会社	高解像度遺伝子発現解析法(HiCEP)による多検体比較解析システムの開発	齋藤 俊行 (放射線医学総合研究所)
4	株式会社エルクエスト	酸素ラジカルを用いた人や環境に完全無公害の低温滅菌装置の開発	林 信哉 (佐賀大学理工学部) 他
5	甲陽ケミカル株式会社	消化器内視鏡検査における粘膜下組織内注入非炎症性新規マーキング材の開発	若林 剛 (岩手医科大学)
6	JITSUBO有限会社	非天然型ペプチド合成のための新規プロリン類縁体製造方法	千葉 一裕 (東京農工大学連合農学研究科)
7	株式会社ガルファーマ	「乳がんホルモン療法効果予知診断」キットの開発	河野 範男 (東京医科大学第3外科) 他
8	株式会社テキサスジェノミクスジャパン	遺伝子検査の標準化と臨床検査会社による実用化推進のための検査キット生産技術の開発	小崎 健次郎 (慶應義塾大学医学部)
9	ネッパジーン株式会社	レーザー吸収剤の熱膨張圧を利用した、オルガネラ用キャピラリーインジェクターの実用化研究	東山 哲也 (東京大学理学系研究科)
10	旭光精工株式会社	薬物経皮吸収型DDSの製造装置開発	高田 寛治 (京都薬科大学薬学部)

物理・機械系分野(10課題)

	企業名	課題名	協力研究者
11	山建プラント株式会社	高光触媒活性を持つナノ粒子酸化チタン繊維の量産化技術の開発とその適用	陶山 容子 (島根大学総合理工学部)
12	株式会社日本技術センター	基準面を用いた高精度形状計測装置の開発	森本 吉春 (和歌山大学システム工学部) 他
13	アンテナ技研株式会社	マルチバンド平面アンテナを用いた多周波共用送受信装置	羽石 操 (埼玉大学工学部)
14	株式会社インターエナジー	自動車AV機器用簡易アダプティブアンテナの開発	桑原 義彦 (静岡大学工学部)
15	日本物理探査株式会社	斜面の健全度評価システムの開発	芦田 譲他 (京都大学工学研究科)
16	神戸天然物化学株式会社	半導体ナノ粒子の光化学的構造制御による新規機能材料の開発	桑畑 進他 (大阪大学工学研究科)
17	株式会社SNT	ナノファーバーを利用した高触媒機能をもつ高性能フィルターの開発	白鳥 世明 (慶応義塾大学理工学部)
18	菱彩テクニカ株式会社	硝酸性窒素浄化能を有する高分子固体電解質型浄水装置の試作	町田 正人 (熊本大学自然科学研究科)
19	株式会社アイデン	非破壊型野菜内硝酸イオン濃度測定法及び小型汎用計測機器の開発	白石 斉聖 (神戸大学農学部) 他
20	株式会社光電製作所	周波数シフト帰還型レーザーによる光遠隔三次元計測機の試作	伊藤 弘昌 (東北大学電気通信研究所)

■ 戻る ■

This page updated on Jun 29, 2006

Copyright©2006 Japan Science and Technology Agency.

www-admin@tokyo.jst.go.jp

[JSTトップ](#) > [プレス一覧](#) > [科学技術振興機構報 第306号](#) > [参考1](#)

参考1

独創的シーズ展開事業 独創モデル化

●仕組み

研究開発型中堅・中小企業から提案された新技術コンセプトを具体的な形とするため、当該中堅・中小企業(モデル化実施企業)にモデル化を委託して、試作品の作製や実用化に向けたデータ取得等を実施します。モデル化実施企業は、JST、大学や公的研究機関等の研究機関(または所属する研究者)と協力して、当該研究機関(研究者)の研究成果、技術指導や評価を得ながらコンセプトのモデル化を実施します。

●モデル化資金

モデル化資金は、モデル化に直接必要となる設備費、試作に伴う材料費、消耗品費、工賃、調査費、外注費、賃借料、研究機関に対する委託研究費などを対象とします。モデル化の際、実施企業においては人材、施設等の提供など応分の負担をお願いすることになります。1件当たりの支出額は3,000万円程度(間接経費を含む)を予定しています。

●モデル化の成果の取り扱い

知的財産権については、「産業活力再生特別措置法第30条」(日本版バイドール条項)に基づく取扱いを行うことで、モデル化実施企業に帰属させることができます。また、本プログラムにより得られた成果を基に、JSTの委託開発(独創的シーズ展開事業)、実施許諾等を行うことで、企業化開発へと結びつくことを期待しています。

■ [戻る](#) ■

This page updated on Jun 29, 2006

Copyright©2006 [Japan Science and Technology Agency](#).

www-admin@tokyo.jst.go.jp